



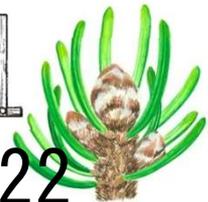
もり
北の森林
国有林

写真：桂月岳からのご来光
(上川町)

今月のトピック

- ・北海道森林管理局長 新年のご挨拶
- ・国有林野等所在市町村長有志連絡協議会開催

1
2022
No. 72



国民の森林・国有林

林野庁  北海道森林管理局



新年のご挨拶

グリーン成長の実現に向けて

北海道森林管理局長 猪島 康浩

令和4年の新春を迎え、謹んで新年のご挨拶を申し上げます。

昨年は、集中豪雨をはじめとする自然災害により、全国各地で甚大な被害が生じました。この度の災害によりお亡くなりになられた方々のご冥福をお祈りしますとともに、被災された皆様には心よりお見舞い申し上げます。

また、外材の輸入量の減少、価格の高騰など輸入木材の供給リスクが改めて顕在化する中で、国産材の安定供給に対する期待が一層高まった年でもありました。北海道森林管理局として、引き続き、国土強靱化に向けた治山対策の強化や木材の安定供給に取り組んでまいります。

さて、我が国の社会経済は、急速な少子高齢化と人口減少による経済停滞、地方衰退が懸念されるとともに、気候変動に伴う自然災害の頻発化や激甚化が指摘

されています。さらに、新型コロナウイルス感染症は、今なお、社会経済に大きな影響をもたらしています。これらの課題に対処していくためには、短期的な効率性や合理性のみを重視するのではなく、持続可能な社会の実現を目指していくこと、すなわちSDGsの達成に向けた取組が必要不可欠といわれています。

こうした中、昨年6月に、森林・林業・木材産業による「グリーン成長」をコンセプトとした新たな森林・林業基本計画が閣議決定されました。新計画では、森林を適正に管理・利用して、林業・木材産業の持続性を高めながら成長発展させる

こと、2050年カーボンニュートラルも見据えた豊かな社会経済を実現することを目指しています。林業の持続性の確保に向けては、再造林・保育の低コスト化・省力化が重要であり、北海道森林管理局では、林業機械によるササの根茎の除去や下刈りの実証などに取り組んでいるところです。引き続き、これらの課題に先頭となって取り組み、その成果を「見える化」して民有林の関係者の皆様に普及していくなど、持続可能な林業の実現に向け取り組む考えです。

また、昨年10月に「脱炭素社会の実現に資する等のための建築物等における木材の利用の促進に関する法律」が施行されたことを踏まえ、関係者と連携を密にして道産材の需要拡大を図って行くことが重要です。北海道でも戦後植林された人工林が本格的な利用期を迎えており、この豊富な森林資源の循環利用による、林業・木材産業の成長産業化や山村の振興への貢献が期待されています。今後とも、国有林材の持続的・計画的な供給に努めるとともに、道産材の需要拡大や加工・流通の合理化に向けて

新たな取組に挑戦する地域の事業者等を後押しするなど、道産材の利用拡大に取り組んでまいります。さらに、近年多発している豪雨や地震等の自然災害に対しては、国土強靱化を図るため、流域治水と連携した治山対策の強化に取り組むとともに、知床をはじめ原生的な森林の適正な保全・管理や、希少種の保護、遺産資源の保存等にもしっかりと対応してまいります。



今年は、現場において、新たな基本計画の実施に本格的に取り組む最初の年となります。北海道森林管理局では、道内関係者の皆様と力を合わせて、カーボンニュートラルを見据えたグリーン成長の実現に向け、様々な課題に挑戦していく考えであり、本年も一層のご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。結びに、本年が北海道の森林・林業・木材産業の飛躍の年となりますとともに、皆様の益々のご健勝とご多幸を祈念いたしまして、新年のご挨拶とさせていただきます。



北海道森林管理局 国有林野等所在市町村長有志連絡協議会

計画的な森林整備・治山対策、

森林の適正な管理・保全の取組を推進



各地区代表世話人の町村長

令和3年12月22日、北海道森林管理局において、令和3年度国有林野等所在市町村長有志連絡協議会を開催しました。

この連絡協議会は、道内の国有林が所在する市町村と森林管理局との連携強化を図ることを目的として毎年開催していますが、昨年度は新型コロナウイルス感染症拡大防止対策により書面開催となったことから、2年ぶりの対面開催となりました。10月を皮切りに道内8地

区において各森林管理署等と各市町村長による有志協議会を開催し、各地区における実情等を共有してきました。

今回は全道での意見交換の場として、各地区の代表世話人である池部南富良野町長、馬場赤井川村長、戸田白老町長、佐々木天塩町長、菅原浜頓別町長、長屋滝上町長、徳永弟子屈町長、木村岩内町長にご出席いただいたほか、林野庁本庁より橘国有林野部長、長崎屋業務課長、村上計画課調査官がオンラインで出席しました。



橘 国有林野部長

冒頭、猪島局長より、「関係機関との連携を図りつつ、計画的な森林整備・治山対策、森林の適正な管理・保全

の取組みを進めるにあたっては、国有林野の所在する市町村、地元の理解と協力が不可欠です。地域の意見や要望を伺いながら、地域の安全・安心な暮らしや地域振興のお役に立てるよう取り組んでいきたい。本日は忌憚のないご意見をお願いしたい。」と開会の挨拶がありました。

また、林野庁の橘国有林野部長より、「連絡協議会は国有林が所在する市町村のみならずと直接、意見交換できる貴重な場です。北海道森林管理局あるいは管内各署の取り組みの内容がみなさまの声を踏まえた、より良いものとなるようご意見をいただきました。」と挨拶

その後、連絡協議会の代表世話人である池部南富良野町長より、「2050年カーボンニュートラルやゼロエミッションといった新たな動きもあるなか、地方と国がこれまで以上に連携していく必要がある。」とご挨拶をいただきました。



代表世話人 池部 南富良野町長

議事では林野庁から新たな森林・林業基本計画、令和4年度の林野関係予算の概要、令和3年度の林野関係補正予算の概要、脱炭素社会の実現に資する等のための建築物等における木材の利用の促進に関する法律、森林経営管理制度の取組状況などについて説明があり、続いて北海道森林管理局からウッドショックに関わる対応、エソシカ被害対策などについて説明を行いました。

次に、各地区の代表森林管理署長から各地区で開催された有志協議会の概要について報告を行いました。その後、各地区での実情を交えながら、地元森林管理署との連携などについて意見交換が行われました。

最後に猪島局長から「皆様方からいただいた様々なご意見については、きちんと受け止め地域振興に役立てていきたい。特に道産材については、できる限り地元で建築材等に加工して付加価値を高めて道内で使用するとともに、道内で消費できないものは道内で加工したものを道外へ移出していく取り組みを関係者の方々とともに進めていきたい。」と挨拶を行い、今年度の連絡協議会を締めくくりました。



猪島 北海道森林管理局長



【背景】

胆振東部森林管理署管内は、北海道中央南部に位置し、工業・牧場・農業・漁業・林業など多種多様な産業に溢れた地域です。

当署管内には苫小牧市、白老町、むかわ町、厚真町、安平町の1市4町があり、その中の苫小牧市、白老町、むかわ町に約6万2千haの国有林と約9万9千haの民有林があります。

苫小牧市の北西部には、三重式火山として知られている樽前山があり、標高1,041mの中央ドームは今も盛んに噴気を上げています。

また、白老町には令和2年に民族共生象徴空間（愛称ウポポイ）が開業し、隣接しているポロト自然休養林は「日本美しの森お薦め国有林」にも選定されています。

【地域の課題】

むかわ町田浦地区にある約65haの耕地防風保安林は、太平洋から吹き込む強風などから農作物を守るた

め大正末期に指定されました。

しかし、樹木の老齢化により成長が止まると共に防風機能が低下してきていることや、強風による倒木及び落枝が、農作業の妨げとなる事態が毎年のように発生するようになりました。

倒木が発生すると森林官だけでは処理が難しいこともあり、本署からの応援が必要となりますが、当該防風林は本署から約60km離れているためすぐには対応出来ない場合もあります。

また、強風により飛ばされた枝を巻き込むことによりコンバイン等が故障すると、その修理代は数百万円となることもあります。



強風により農地に倒れた木

このことから、平成29年度に、むかわ町より、防風保安林の機能向上と近隣住民への安全確保という課題の解決のため、要望書が提出されました。

【課題解決に向けた取組】

むかわ町の要望に応えるため、平成30年度から10年計画で防風保安林改良事業に着手しました。

事業計画は伐採面積約21haを五つのグループに分けて令和4年度までの5年間で伐採し、跡地には地帯えを行い、町の木であるアカエゾマツをha当たり三千本植栽し、その後、補植や下刈を行っています。

隣接している農家の方々からは、これまでの取り組みに対して好意的な評価を頂いており、課題解決に向け、一歩前進したと考えています。

【今後の取組】

令和5年度からは、植栽したアカエゾマツの保育作業を進めていきますが、伐採したヤチダモの伐根からは旺盛な萌芽が見られ、アカエゾマツ

の生長に影響を及ぼす恐れも考えられることから、将来的には除伐作業の実施も検討しながら、保育作業を継続していく必要があります。



現在の耕地防風保安林

【終わりに】

今回の取組では、むかわ町や土地所有者の方々から様々な協力を得られたことに加え、面積も小規模な耕地防風林であったため、効率的、効果的に作業を進めることが出来ました。

近年、この防風林ではエゾシカ生息数の急激な増加や、それに伴う農業被害、交通事故などの新たな問題も発生しています。

今後、町や地域住民の方々と協力、連携しながら防風保安林の健全な維持管理に努めていきたいと思えます。

センター通信

知床森林生態系保全センター



知床森林生態系保全センターでは、知床世界自然遺産関係の業務を行っています。今回はそうした業務の一つである、野生生物観測調査についてご紹介します。

【野生生物観測調査とは】

野生生物観測調査は、写真のように、林道沿いの木にセンサーが反応すると自動で撮影を行うカメラ機器を取り付け、野生生物の生息状況をモニタリングすることで、適切な生態系の管理に繋げることを目的に行っています。2008年度から実施しており、今年度で14年目になります。



自動撮影カメラ

当センターでは斜里側のオパケブ林道、羅臼側の春荻古丹林道の2ヶ所それぞれ

それ2ヶ月間実施しているのですが、カメラがヒグマにいじられて落下していることがあるので、設置期間中は週に一度見回りを行います。

【撮影された野生生物たち】

延べ4ヶ月の調査で、約2,000枚の写真が撮影されますが、そこにはエゾシカやヒグマを始めとした様々な生物が写っています。次の写真は、春荻古丹林道にて撮影されたヒグマの写真です。頭から前足にかけてしか写っていませんが、これだけ近い距離だと、ヒグマの爪の鋭さまでよく分かります。



昨年7月に撮影されたヒグマ

この調査では、普段は見ることのできない野生生物

の姿を見ることができ、職員にとっては楽しみの一つにもなっています。

【外来種が写ることも】

エゾシカやヒグマは知床では見慣れた生物ですが、撮影されるのはそうした見慣れた生物たちだけではなく、本来はそこに生息していないはずの外来種が撮影される場合もあります。

この調査ではそうした外来種のモニタリングも目的となっています。



昨年6月に撮影されたアメリカミンク

こちらは特定外来生物にも指定されている、アメリカミンクの写真です。アメリカミンクは、知床では外来種の中でも比較的撮影されることの多い生物です。



昨年9月に撮影されたアライグマ

こちらは「あらいぐまラスカル」でお馴染みのアライグマです。可愛いイメージがあるかもしれませんが、アライグマも特定外来生物に指定されています。

外来種は知床の貴重な生態系に影響を与える恐れがあるため、撮影された場合は、環境省や知床財団への情報共有および知床白書への情報掲載をしています。

【おわりに】

今回は紙幅の都合上、数枚の写真しかご紹介できませんでしたが、知床森林生態系保全センターホームページの職員ブログ（2021年12月）では他の写真なども掲載しておりますので、ぜひご覧ください。

こんにちは 森林官です!

十勝西部森林管理署
芽室森林事務所
森林官 久保 拓士



【地域の紹介】

芽室森林事務所は、十勝平野の中央部に位置する芽室町の市街地にあり、芽室町と音更町の国有林を管轄しています。

各町の森林面積は、芽室町が約2万ha、音更町が約1万2千haですが、それに対して農地面積はそれぞれ約2万1千ha、約2万4千haと、森林と同じかそれ以上の広大な農地が広がっています。どちらも北海道で10本の指に入る面積(農林水産省統計)で、有数の農業地域である十勝地域の中でも中心的存在です。



日高山脈の山々と広大な農地

また芽室町は、日高山脈

の芽室岳、伏美岳、ピパイ口岳、といった優れた峰を擁していて、その景色は美麗の一言。晴れた日はずっと眺めていられます。

【芽室森林事務所の特徴】

芽室森林事務所の管轄する国有林面積は約1万5千haです。芽室町側の国有林は、日高山脈を中心とした山岳域の森林で、音更町には風から農地を守る防風林があります。また西町をまたぐように「国見山自然観察教育林」という森林もあり、こちらは林内に遊歩道が整備されており、地域の方々の学びの場、憩いの場



十勝平野を見渡す国見山

として利用いただいています。

このように多彩な森林を管轄しているところが、芽室森林事務所の特徴だなど私は思っています。ある時は日高の山へ森林の調査に行ったり、ある時は国見山の看板を直したり、ボランティアと協力して森林整備を行ったり、またある時は防風林に問題がないか点検したり業務の多様さにつくづく驚きます。

【事務所業務とツール】

当事務所では、多様な業務をこなす中で効率よく仕事ができるよう、様々なツールを駆使して業務を行っています。

みなさんおなじみGPSや、近年話題のドローンを利用して上空から短時間で森林の状況把握、それから全方位撮影可能な特殊なカメラを利用し、森林の成長量を測るといったこともしています。

これらの技術を駆使することで、国有林内の状況を、

少ない時間で効率よく確実に把握できるようにしています。



全方位撮影カメラ写真のデータ分析

【最後に】

私は、北海道森林管理局ホームページの『森林の撮っておき』というコーナーでも定期的に情報発信をしていますので、良ければご覧いただけると嬉しいです。私が森林官になって1年半が経ちますが、やっと森林官という仕事に慣れてきたような気がします。

十勝の雄大な農業景観、そして森林を眺めつつ、これからも頑張っていきたいと思います。

各地からの便り

「各地からの便り」の詳細は

森もりスクエア

検索



しらおい環境セミナー講演（えりも国有林緑化事業）



【日高南部森林管理署】

11月27日（土）、白老町と白老環境町民会議主催の「しらおい環境セミナー」が、白老町総合保健福祉センターにおいて開催され、当署えりも治山事業所の島下治山技術官とひだか南森林組合の飯田英雄氏による「「夢は砂漠化しない」～えりも岬緑化事業 68年の歴史 豊かな森、海に～」という演目で、えりも岬の緑化事業について講演を行いました。白老環境町民会議の中野会長より「当会議は創設より地球温暖化や身近な自然環境の保全等の活動をしている。このことについては「えりも国有林の緑化事業」に学ぶことが多いと思うので、ぜひ学んで帰ってほしい」と挨拶がありました。講演内容は、昭和28年より行っている「えりも国有林緑化事業」について島下治山技術官がスライドやDVDにより話を進め、合間合間に森林組合の飯田英雄氏が当時の生活状況や緑化事業の苦労話について説明を加えるという方式で講演が進みました。

「狩猟者のための森林講座」を開催しました



【空知森林管理署】

12月9日（木）17時から、夕張市拠点複合施設「りすた」で行われた、北海道猟友会夕張支部の臨時総会において、「狩猟者のための森林講座」を開催しました。今回の臨時総会は、夕張市内で発生したポニー誤射事案や狩猟者のヒグマによる死亡事故等を踏まえ、支部会員に対して再発防止策の周知を行い、法令遵守と狩猟におけるルール・マナーを徹底することを目的として実施されました。

当日は、武森空知森林管理署長のあいさつの後、保全課藤本生態系管理指導官から「森林管理者からのお願い～狩猟の安全確保に向けて～」の講話を行いました。また、参考資料として「お山ん画」を配付し、森林管理署の山での仕事に理解を求めました。今後も、猟友会支部と連携しながらエゾシカ対策や安全な狩猟に向けた各種取組みを継続していくこととしています。

宗谷森林管理署カレンダーを宗谷管内の各市町村等に配布しています！！



【宗谷森林管理署】

宗谷森林管理署の若手職員が、地域の皆様に少しでも国有林を身近に感じてもらい、さらに、森林の魅力や当署の森林・林業に対する取組みを知っていただくことを目的に、この1年間の当署管内の10市町村の風景を撮影し、それら写真を抜粋し掲載したカレンダーを作成しました。

完成したカレンダーは、国有林のPRの一環として、各森林事務所の職員が12月8日から順次管内に所在する各市町村役場、図書館、小学校、中学校、高等学校、公民館等に直接訪問して配布し、施設内の掲示板等に掲示していただくようお願いをしました。配布先の皆様の反応は、好評であり、国有林のイメージアップにつながる取り組みができたものと考えております。作成したカレンダーは以下からダウンロードできます。皆様ご活用ください。

https://www.rinya.maff.go.jp/hokkaido/introduction/gaiyou_sy/souya/2022.html



ICT施工現地見学会を開催



【渡島森林管理署】

令和3年11月25日（木）、渡島森林管理署森町国有林の精進川線作業道でICT施工現地見学会を開催しました。本工事を実施する株式会社石井組の協力を得て実施しました。

ICT施工とは、情報通信技術のことでIT（情報技術）にインターネットなどの通信技術を拡張した用語であり、林道新設工事等ではICT建設機械、ここではバックホウのマシンガイダンス等を可能とし、丁張の設置や補助作業員を排することで、工事の省力化を図るものです。

本工事の現場代理人から、ICT施工による工事の詳しい説明を受け、工事を実際に見学しました。バックホウ内のモニターを見学したりオペレーターの方より、通常の運転との違いや、操作性等について話を聞かせていただきました。

北海道森林管理局で「日本のお山森アゲ隊」

—ドローン編— 第1弾動画を作成!!



北海道森林管理局では林野庁（非）公認キャラクターの「林リン子」がナビゲーターとなり、職員の特技を活用して日本の森林・林業・木材産業を盛り上げる「日本のお山森アゲ隊」シリーズの作成を開始しました。今回はシリーズ第一話目となる「ドローン編」として、ドローン技術普及に向けた道局の取り組みと、それを題材としたドローン漫画を庁内絵師が作成し紹介しています。

是非ご視聴ください。

YouTube へのリンク <https://www.youtube.com/watch?v=3FPRfcYsNA>



こちらもお楽しみください。

漫画で学ぶ森林・林業・木材産業の魅力へ

<https://www.rinya.maff.go.jp/hokkaido/square/kinoehon/index.html>

漫画で楽しく学ぶ森林・林業・木材産業の魅力へ

<https://www.rinya.maff.go.jp/j/tosyo/manga.html>

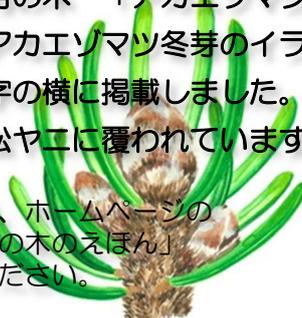


もり
広報 「北の森林 国有林」 1月号
発行 林野庁北海道森林管理局
編集 総務企画部 企画課
〒064-8537 札幌市中央区宮の森
3条7丁目70
I P 電話 050-3160-6300
電 話 011-622-5213
F A X 011-622-5194

<https://www.rinya.maff.go.jp/hokkaido/>

● 今月の木 「アカエゾマツ」 ●
今月はアカエゾマツ冬芽のイラストを表紙の月数字の横に掲載しました。
冬芽は松ヤニに覆われています。

詳しくは、ホームページの「北海道の木のえほん」をご覧ください。



今月の表紙